

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会 感染症解析評価部会]
(平成15年6月解析分)

1 疾患別定点情報

定点把握(週報)四類感染症

平成15年5月分(4月28日~6月1日:5週間分)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	29	0.06	0.04	↓	12	麻疹	1	0.00	0.30	
2	咽頭結膜熱	87	0.29	0.13	↑	13	流行性耳下腺炎	235	0.78	1.14	↗
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	383	1.28	0.82	↗	14	急性出血性結膜炎	8	0.10	0.06	
4	感染性胃腸炎	1,820	6.07	4.35	↘	15	流行性角結膜炎	141	1.68	1.32	↗
5	水痘	932	3.11	1.63	↗	16	急性脳炎	1	0.01	-	
6	手足口病	498	1.66	0.43	↑	17	細菌性髄膜炎	2	0.02	0.02	
7	伝染性紅斑	112	0.37	0.22	↗	18	無菌性髄膜炎	3	0.04	0.20	
8	突発性発疹	265	0.88	0.07	↗	19	マイコプラズマ肺炎	20	0.24	-	⇒
9	百日咳	3	0.01	0.03		20	クラミジア肺炎	0	-	-	
10	風疹	13	0.04	0.04	⇒	21	成人麻疹	0	-	-	
11	ヘルパンギーナ	68	0.23	0.41	↑	「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

急増減	増減	微増減	横ばい
↑	↗	↘	⇒
↓	↘	↗	
前月と比較しておおむね1:2以上の増減	前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減	前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	殆ど増減なし(発生件数少数のものを含む)

定点について

定点情報は、定点把握対象の四類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について、県内187の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD 定点	基幹定点	合計
対象疾患 No.	1	1~13	14, 15	22~25	16~21, 26~28	
定点数	44	75	20	27	21	187

この情報は、「<http://www.pref.hiroshima.jp/fukushi/kenkou/kansen/index.html>」のホームページに掲載しています。
全国情報については、「<http://idsc.nih.go.jp>」に掲載されています。
インフルエンザホームページについては、「<http://influenza-mhlw.sfc.wide.ad.jp>」に掲載されています。

定点把握（月報）四類感染症

平成15年5月分（5月1日～5月31日）

疾患 No	疾患名	月間発 生数	定点 当り	過去 5年 平均	発生 記号	疾患 No	疾患名	月間発 生数	定点 当り	過去 5年 平均	発生 記号
22	性器クラミジア感 染症	62	2.30	1.81	↗	26	メチシリン耐性黄 色ブドウ球菌感染	101	4.81	-	↘
23	性器ヘルペスウイ ルス感染症	15	0.56	0.55	↘	27	ペニシリン耐性肺 炎球菌感染症	71	3.38	-	↗
24	尖圭コンジローム	11	0.41	0.40	↗	28	薬剤耐性緑膿菌感 染症	21	1.00	-	↑
25	淋菌感染症	27	1.00	1.15	↗	「過去5年平均」：過去5年間の同時期平均 （定点当り）					

インフルエンザ 急減（4月138件 5月29件）
 咽頭結膜熱 急増（4月31件 5月87件）
 手足口病 急増（4月65件 5月498件）
 ヘルパンギーナ 急増（4月14件 5月68件）
 薬剤耐性緑膿菌感染症 急増（4月9件 5月21件）

2 一類・二類・三類感染症及び全数把握四類感染症発生状況

一類・二類感染症 発生なし
 三類感染症 3件発生（腸管出血性大腸菌感染症（広島市1件（0111）、福山市2件（0157））
 全数把握四類感染症 14件発生
 （急性ウイルス性肝炎 2件（A型・B型）、オウム病 1件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件、
 後天性免疫不全症候群 1件、先天性風疹症候群 1件、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 7件、
 レジオネラ症 1件）

3 一般情報

水痘

水痘は、3月頃から徐々に増加し始め、4月は599件だったが、5月は932件と急増している。昨年同
 時期（597件）と比較しても本年は発生件数が多い。

病原体は、ヒトヘルペス群ウイルス 亜科の水痘・帯状疱疹ウイルスで、感染経路は、下気道、
 上気道病巣部や水疱液中のウイルスが、飛沫により空気中に排出され、それを経気道に吸入するこ
 とにより感染する。

潜伏期間は、10日から21日で、最初に発疹が出現する1日から2日前まで、水疱が痂皮化するまで
 の7日から10日程度が伝染力がある。

症状は、発熱、倦怠感、発疹が見られ、発疹は2日から3日のうちに水疱、膿疱、痂皮化の順で急
 速に進行する。健康な子供では、一般的に予後は良好であるが、免疫低下、免疫異常の状態では、
 経過が重症化し、予後が不良な場合がある。

咽頭結膜熱

発生件数は87件と前月（31件）から増加傾向にある。小学校等でプールが始まる時期にあたり、
 今後も増加すると考えられる。

病原体は、アデノウイルスで47種類の血清型が知られている。感染経路は、飛沫感染であるが経
 結膜や経口的な感染も考えられる。症状は、発熱で発症し頭痛、食欲不振、全身倦怠感とともに、
 咽頭炎による咽頭痛、結膜炎にともなう結膜充血、眼痛、流涙があり3日から5日程度症状が続き、
 後頸部のリンパ節の腫脹と圧痛を認めることがある。プールを介して流行することから、プール熱
 とも言われている。

重症急性呼吸器症候群（SARS）に関する情報を提供しています。

<http://www.pref.hiroshima.jp/fukushi/hoken/sars2/index.html>